ＩＳＳＮ 0285－4767

北海道考古学会だより

第　98　号
２０１０．12．３

目　次

2010年度 遺跡見学会実施報告 …… 1
参加体験記：佐藤　千春さん「遺跡見学会に参加して」…… 2
2010年度 遺跡調査報告会のお知らせ …… 3
定例研究会のお知らせ …… 4
事務連絡 …… 4
入会者のお知らせ …… 4
会費納入についてのお願い …… 4

2010年度 遺跡見学会実施報告

今年度の遺跡見学会は、「縄文文化にふれる道南の旅」をテーマとして、８月21日（土）～８月22日（日）に１泊２日で実施しました。今回は43名のご参加をいただき、函館市・木古内町・七飯町の遺跡や発掘現場、展示施設を巡りました。２日間とも好天に恵まれ、見学先の担当の方々は暑さをものともせず、熱弁をふるって解説してくださりました。大船遺跡の竪穴住居跡の大きさと出土品の豊かさ、国宝の中空土偶（本物）の写実性と精巧な造り、盛土遺構の土層断面に突き刺さる円筒下層式土器の密集度などに、ご参加の方々は感嘆されることしきりでした。今年度は江別市在住の佐藤千春さんに参加体験記をお願いしました。

〔見学コース〕
１．函館市大船遺跡（福田裕二氏）
２．市立函館博物館（大矢京右氏）
３．木古内町大平遺跡（立川トマス氏）
４．木古内町木古内１遺跡・木古内２遺跡（大泰司統氏）
５．七飯町歴史館（山田央氏）
休日にもかかわらず対応してくださった各担当の方々にお礼申し上げます。

大船遺跡

市立函館博物館

大平遺跡

木古内１遺跡

七飯町歴史館

「遺跡見学会に参加して」

佐藤　千春

私は仕事で考古遺物の整理作業に携わっていることから、以前より円筒式土器や盛土遺構に興味がありました。そこで今回初めて北海道考古学会の遺跡見学会に参加しました。日程は１泊２日で道南の函館市周辺の遺跡や博物館をめぐるというものです。

１日目。まずは「北海道・北東北の縄文遺跡群」として世界遺産登録を目指している函館市大船遺跡へ行きました。バスが到着してすぐに、埋蔵文化財展示館の前に大量の石皿が山積みに置かれているのが目に入りました。このことからも、いかに多くの遺物が出土したかが想像されます。展示館に続いて、屋外の復元された竪穴住居群を見学しました。掘り込みの深さが２ｍを越えるような、大きな竪穴住居の前で、函館市教育委員会の福田さんが、当時の暮らしの様子をわかりやすく説明してくださいました。

次に向かったのは市立函館博物館です。ここでは国宝に指定された中空土偶の他、北海道や東北の遺跡から出土した数々の遺物が展示されていました。特に目当てだった本物の中空土偶は、学芸員の大矢さんの説明では、現代の技術でも製作するのは非常に困難だそうです。数千年もの昔、すでにこのような精巧な土偶を作る技術が確立されていたことに驚きました。さまざまな表情、造形の土偶たちをじっと見つめていると、縄文時代の人々がどのような想いを込めて製作したのか興味は尽きません。１日目はここで終了し、湯の川温泉のホテルに宿泊しました。

２日目。財団法人北海道埋蔵文化財センターが発掘調査中の遺跡を見学するため、木古内町へ向かいました。最初の大平遺跡では、縄文時代前期の円筒下層式期を主体とした集落跡が見つかっていました。盛土遺構の土層断面には、多量の土器や石器が折り重なっている様子が見られ、参加者からは大きな歓声があがりました。こちらの大平遺跡は調査途中の現場ということもあり、前日の復元遺跡とは異なる生の迫力がありました。調査を担当されている立川さんが、遺構の検出からトレンチ調査、遺物の取り上げまでの発掘の進め方を具体的に説明してくださいました。参加者の中に千葉県で発掘作業を経験さ

れた方がいて、本州と北海道の発掘方法の違いなどに驚かれていたようでした。
次は木古内１遺跡・木古内２遺跡です。こちらでは擦文文化期と縄文時代前期・後期の住居跡が調査されていました。縄文時代は夏と冬で住居を使い分けていて、木古内２遺跡のような深い竪穴住居跡は冬に使った可能性があるとの説明を聞き、前日の大船遺跡の大きな住居跡を思い出しました。こちらの住居跡の床面には、石器を磨いた際に生じた石粉がつまった通称「砂ピット」が見つかっていて、雪の積もる地域独特の特徴ではないかとのことでした。木古内１遺跡では、動物を捕らえるための落とし穴と考えられるＴピットが見つかっていました。調査を担当されている大泰司さんが、鹿が穴に落ちる仕組みについて、身振り手振りを交えながら大変ユーモアな解説をしてくださり、みなさんも熱心に聞きいっていました。
最後は七飯町歴史館を見学しました。こちらでは、明治から昭和にかけての民家、牛舎などが屋内に復元され、実際に使われていた農機具や漁具が展示されていました。学芸員の山田さんが、実際にこれらの道具を操作しながら、使用方法などを説明してくださりました。考古遺物のコーナーでは、聖山遺跡で出土した縄文時代晩期の土器や土偶が展示されていました。特に興味深かったのは、犬か熊のような動物を象った土偶があったことです。中空土偶のような「ひとがた」だけでなく、身近な動物を対象としたところに、縄文人の精神の豊かさ（優しさ）、そして「遊び心」？を感じました。
この２日間はとても楽しく、いろいろと勉強になりました。またこのような機会がありましたら是非参加したいと思います。遺跡や博物館で丁寧に解説してくださった担当職員の方々や、今回の遺跡見学会を企画・実施してくださった北海道考古学会の方々、そのほかお世話になった参加者の方々にも大変感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

2010年度 遺跡調査報告会のお知らせ

今年度行われました北海道内の遺跡調査についての報告会を以下の通り開催いたします。
開催にあたり、例年通り発表遺跡の資料と地域ごとの発掘調査の概況を掲載した資料集を刊行します。また、報告会終了後には懇親会を用意しておりますので、こちらもぜひご参加下さい。

○日　時：2010年12月25日（土）　10：00～17：00　（開場９：30）
○場　所：北海道大学学術交流会館（札幌市北区北８条西５丁目）講堂
　　＊公共の交通機関をご利用下さい。
○参加費：無料（資料集は1,000円で頒布予定です。）

○報告遺跡（予定）
《午前》　　※【　】内は主な時代
　木古内町　大平遺跡　【縄文時代前期・擦文文化期】
　福島町　館崎遺跡　【縄文時代前期～中期】
　伊達市　北黄金２遺跡　【縄文時代前期】
《午後》
　厚真町　ヲチャラセナイ遺跡　【縄文時代前期】
　根室市　トーサムポロ湖周辺竪穴群　【アイヌ文化期】
　松前町　福山城下町遺跡　【江戸時代】
　厚沢部町　館城跡　【幕末】

○懇親会：17：30～（北海道大学百年記念会館「きゃら亭」）3,500円

○その他
当日書籍等の販売・チラシ等の配布を希望する方は事務局まで御一報下さい。

※本報告会は、道民カレッジ連携事業です。

定例研究会のお知らせ

【報告】
第３回定例研究会
○日　時：７月25日（日）　15：30～

○場　所：江別市郷土資料館（江別市緑町西１丁目38番地）
○発表者：佐藤　一志氏（江別市郷土資料館）
○テーマ：戦前における江別市内の発掘調査資料―江別市郷土資料館特別展から―

第４回定例研究会
○日　時：10月10日(日)　15：00～
○場　所：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517室
○発表者：榊田　朋広氏（札幌市埋蔵文化財センター）
○テーマ：トビニタイ式土器研究の現状と課題

第５回定例研究会
○日　時：10月31日(日)　15：00～
○場　所：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517室
○発表者：北海道札幌稲北高等学校自然科学部地学班の皆さん
○テーマ：余市栄町７遺跡における砂質堆積物の特性から古環境を探る

第６回定例研究会
○日　時：11月28日(日)　15：00～
○場　所：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W104室
○発表者：清水　香氏（國學院大學大学院文学研究科史学専攻後期課程）
○テーマ：擦文・アイヌ文化期の出土木製品における和産物について
　　―考古資料ならびに文献資料からみる交易・移入

※会員の皆様で、月例会での研究発表を希望する方は研究会担当運営委員（高橋・佐藤）までご一報ください。

入会者のお知らせ

≪新入会員≫※五十音別・敬称略
笹田　朋孝（愛媛県）　設楽　政健（青森県）　田代　雄介（斜里町）　中谷　麻美（洞爺湖町）

※退会者については、個人情報保護のため掲載を控えています。

会費納入についてのお願い

会の運営には、会員の皆様のご協力が不可欠です。会費の年内納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。また、本年度を除く過去３年以上の会費が納入されていない会員には、北海道考古学会誌を送付しておりません。会費納入を確認した後、送付いたします。

郵便局口座番号：02770－６－8358　加入者名：北海道考古学会
年会費：(一般) 5,000円　　(学生) 3,500円

北海道考古学会だより　　第98号　　2010年12月３日　発行
発行所　北海道考古学会（HP：http : //www.h7.dion.ne.jp/~hokkouko/）
事務局；〒060-0810　札幌市北区北10条西７丁目
北海道大学大学院文学研究科北方文化論講座　小杉研究室気付
TEL/FAX (011)706-4000
E-mail；hokkaidokoukogakkai@m9.dion.ne.jp
印　刷　北海道図書企画　(011)668－1131